

# さくら湖自然環境フォーラム2010

平成二十二年十一月十三日(土)

今回は福島県三春町にあるさくら湖自然観察ステーションにて行われた「さくら湖自然環境フォーラム2010」についてレポートします。今年度は「里山の知恵と暮らし」をテーマに開催されました。

三春ダム(さくら湖)は平成十年に完成し、地域に開かれたダムとして、さくら湖周辺における流域住民の環境学習の場として利用されています。

まず沢石小の皆さんによる「三世代アンケートから見つけた ぼくたちの発見」の発表がありました。皆さんは里山に関する質問を、祖父母世代・父母世代・児童世代に分けてアンケートしたのでそうです。例えば「山(林)で行っていることは何か」という質問に対して祖父母世代→父母世代→児童世代へと移行するにつれて「薪にした」「炭を作った」「落ち葉を集めた」「下草刈り」「日当たりのために林を刈った」という回答の総数が激減していたそうです。また「山で採ったもの、遊んだことは何か」という質問では、祖父母・父母世代は、食べ物を探りに行く割合の方が多いのに対し、児童世代は遊びに行く割合の方が多くなっていることがわかったそうです。沢石小の皆さんの発表を聞いてみると、「昔は山が生活の場であった」ということがわかりました。

次に「フォーラム2010」の思い出と、その後の活動」として(財)ふくしまフォレスト

スト・エコ・ライフ財団から、今回のレポートを担当した私武地が発表しました。高校生のときに「森の、聞き書き甲子園」に参加し「森の名人」と呼ばれる志田忠儀さんを聞き書きし「自然と人間の共生」を意識するようになりました。その後、自然と人間が共生する生活を求めて山形県の山村で、シナノキを原材料にする織物「しな織」の研修生として生活しました。そこで体感した自然と人間の共生の在り方というのは「あくまでも人間が主体であって、人間が生活するために自然を上手に利用する暮らし」「人と人が共生する暮らし」「あるものを活かす暮らし」でした。また、里山は「生き方」の多様性も思い起こさせるものでした。

質金はそれほど多くなくとも、豊かな生態系サービスや交換・贈与などの地域コミュニティのあるような、収入と安定・心の安定のバランスがとれた生活が望ましいのではないかと個人においては多様な労働形態が、企業においては労働の流動性が許される「現代の百姓」の存在する状況を作っていくことが必要なのではないか」というお話でした。最後に「三春の里山のよさ、再発見」ということでパネルディスカッションが行われました。コーディネーターは澁澤さん、パネラーは小椋さん、三春町認定農業者の影山明夫さん、前三春町老人クラブ連合会会長の石井義久さん、さくら湖自然観察ステーション企画運営委員会の佐々木浩一さんでした。三春町の水田面積では約三万人分の米を賄うことができるのだそうです。三春の自然と人間との関係はどうなることが望ましいのか、という問いかけに対して、影山さんから「サントリーマンを退職してお金のある人が、楽しんで農業をするという体制を推進すれば田畑が荒れなくて済む」と石井さんからは「自然を相手にして生きてきた地域だから、学校でも作物の作り方を教えることも必要である」と小椋さんからは「三春の観光収入は多いが、春以外にも滝桜を拠点にした自然を破壊しない観光を起すことが地域を活性化させるのではないか」と佐々木さんからは「三春にある里



山クラブというものを各地域に分散したらよいのではないかと。自然に関心がある人は都会に多いもので地元へ来て良さに気付かないことも多い。三春の短期的な移住と、それを継続させるアイデアが必要である」とのお話でした。澁澤さんからは、「現在は新ながインターネットなどで取引されるようになり、一時期価値が無いと言われていた自然が見直される時代が来ている。都市と農村の持ちつ持たれつという関係の中で、初めて里山が維持され、次の世代に繋いで行けるということが今日のお話を聞いていてる中でいただきました」というまとめをいただきました。

## 木になるワード 『アーボリスト』

イギリス発祥の高木に登り、幹・枝を伐る高木剪定・伐採のスペシャリストです。日本語では「樹護士」と書きます。林業家よりも多彩な樹木の維持管理技術に長け、庭師よりもより高木を扱うことに長けています。ローブを積極的に使うクワイミングの技術を用いることで、高所作業車やクレーン無しで高木を剪定・伐採することが可能です。日本にはまだアーボリストは少ないのですが、多種多様な巨木が存在する日本にこそ必要だと思えます。



## 情報をお寄せください!

森林ボランティアサポートセンターでは、森林に関する様々な情報(森林整備活動やクラフト体験といったイベント、森林整備活動を行えるフィールド、保険、助成金など)を募集しています。また、「こんな情報をホームページや新聞に載せたいのでは?」「あの団体を紹介して欲しい」など、本紙に関するご意見・ご感想もお待ちしております。お寄せいただいた情報・ご意見・ご感想について、ご本人の了解をいただけるようでしたら、当センターのホームページや本紙にて紹介させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

送り先 Eメール: info@f-vfsc.com  
FAX: 0243-68-2060  
記入事項 お名前(ふりがな)、所属、連絡先(TEL/FAX/Eメールアドレス)  
ご意見、ご感想のほか、森林に関する情報など

## 問合せ先 福島県森林ボランティアサポートセンター

開館時間 9:00~17:00  
〒969-1302  
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 68  
ふくしま県民の森「フォレストパークあだたら」ビジターセンター内  
TEL 0243-48-2040  
FAX 0243-68-2060  
ホームページ <http://www.f-vfsc.com/>  
メール info@f-vfsc.com

## サポートセンターまでのアクセス

東北自動車道二本松ICから車で約20分  
本宮ICから車で約20分  
※公共交通機関はございませんのでお気をつけてお車でお越しください。



「森ボラ新聞」は再生紙を使用しています。

編集後記  
やっと森ボラ新聞第十五号を皆さんの元へ届けることができました。今年度は取材が遅くなり、なかなか仕上がらず、待っていた皆さんに申し訳ありませんでした。でもその分いいものが出来たと思います。それと今回から新しい仲間が加わりましたので、新しい視点でのイベントレポートもぜひ楽しんで読んで頂ければ幸いです。



山ガール (武地 たけち)



植物好き (遠藤 えんりょう)